

下の表は、100 人の子供を対象に体重を測定した結果を表にしたものです。ご覧のように相対度数というのは、どの階級の割合が全体に対して多いのか、少ないのかを比べるものです。したがって、その階級の度数を合計の人数などで、割り算を行って小数表記した方が、階級同士を比べやすく、どの階級が最も多いかなどの判断がしやすいのです。実際下の表で、分数にした場合、どの階級の割合が多くて、どの階級の割合が少ないのか、すぐには比べられませんよね。比べるには、厳密には通分が必要です。通分しないのなら、割り算して小数にして比べますよね。だったら、はじめから小数で表わして、階級同士を比較しやすくしましょうというのが狙いです。ですから、相対度数は階級同士の比較をしやすいために、小数で表わしているのです。それともう一つ同じような理由なんですけど、例えば今年と去年の比較をしたい場合、今年と去年で合計の度数が異なるとします。このように、度数が異なっても相対度数を使って比較できます。その比較をしやすくするため小数で表わします。

体重 (kg) 以上 ~ 未満	人数	相対度数	分数表記
30 ~ 35	5	0.05	$\frac{1}{20}$
35 ~ 40	17	0.17	$\frac{17}{100}$
40 ~ 45	25	0.25	$\frac{1}{4}$
45 ~ 50	28	0.28	$\frac{7}{25}$
50 ~ 55	15	0.15	$\frac{3}{20}$
55 ~ 60	7	0.07	$\frac{7}{100}$
60 ~ 65	3	0.03	$\frac{3}{100}$
合計	100	1	1

小数で表わした方が、比べやすいんですね。